

栗東市の農業に関する事業者ヒアリング調査結果（概要）1/2 令和3年1月

◆調査の目的

本調査は、生産者と消費者を結ぶ、地元農産物と関わりの深い栗東市内の流通、販売、飲食等の事業者に対して、地元農産物等の流通、販売等の現状、またその課題等から栗東市農業に関する意見、要望等をお聞きしました。

調査結果は、本市の農業が目指すべき将来像及び施策の方向性等を定める『(仮称)栗東市農業振興基本計画』検討のための基礎資料として活用します。

◆調査の概要

調査対象	栗東市内の流通、販売、飲食等の事業者	
	A 流通事業者等	JA 栗東市とその他流通事業者1社 (対象：2事業者、調査済：2事業者)
	B 販売事業者等	栗東市内のスーパー等 (対象：9事業者、回収済：6事業者)
	C 直売所・道の駅	直売所1施設、道の駅2施設 (対象：3事業者、回収済：3事業者)
D 飲食・加工事業者	栗東市内の飲食店、菓子店等 (対象：6事業者、回収済：6事業者)	
調査方法	・設問シート配布(郵送、メール)及び回収 ※一部電話による聞き取り ・対面でのヒアリング調査(JA 栗東市及び直売所)	
調査日	・設問シート : 12/14(月) 配布～ ・対面ヒアリング : 12/21(月) 実施	

◇栗東市の農業振興の展望

・これからの農業振興にむけて、「担い手の確保」や「地域のリーダーとなる人材の育成」が必要と考えられます。

・担い手確保の取組として、「新規就農者や後継者に対する研修や就農相談などの制度の充実」や「融資制度」、「農地のあっせん」が重要と考えられています。

●事業者間の連携等のもと、農産物の品質向上や流通促進による農業経営の安定化に向けた取組が求められています。

・端境期をカバーできる生産体制や出荷ロスの少ない流通販売体制

・都市部の市場に応えるイチジクの生産・流通拡大

・新たに特産品を作ろうとせず、今ある作物の品質等を向上させる取組など

●農業振興に向けた担い手(新規就農者や農業後継者)の育成・確保や地域のリーダーとなるべき人材の育成が重要であると考えられています。

B 販売事業者等

◇地元農産物の取扱状況

販売している(3店舗)	販売していない(3店舗)
<p>●店舗で取り扱っている地元農産物</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・内1店舗：法蓮草、小松菜、水菜、生椎茸</li> <li>・内2店舗：いちじく</li> </ul> <p>●地元農産物の主な仕入方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の野菜と同様の卸経由</li> <li>・滋賀びわこ青果より仕入れ</li> <li>・自社農園による栽培</li> </ul>	<p>●販売していない理由</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流通ルートが無い、知らないから</li> <li>・本社に発注すれば取扱いが可能だが、現在はしていない</li> <li>・本社より決められた商品しか販売できないから</li> </ul>

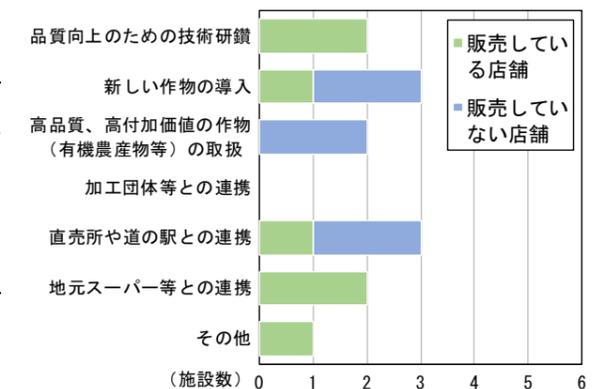
◇地元農産物の評価

・「新鮮でおいしい」と評価を得る一方、地元農産物を取り扱うにも、「入荷や品質が安定せず売り場の維持が現実的に困難」との意見が挙げられています。

◇生産者に取り組んで頂きたい事項

・生産者への期待として、「新しい作物の導入」や「直売所や道の駅との連携」などの意見が挙げられています。(図)

図 生産者に取り組んで頂きたい事項(回答数)



●地元農産物として「いちじく」のみを取扱う店舗が多く、地元農産物の取扱い数(アイテム数)が全体的に少ない傾向にあります。

●地元農産物の取扱いが少ない要因として、入荷状況や品質が不安定なため売り場の維持が困難であることのほか、入荷ルートを知らない、各店舗独自の判断での入荷ができないことなどが考えられます。

主な調査結果

A 流通事業者等

◇地元農産物の現状と需要

・需要があると思う地元農産物として、「県の環境こだわり農産物である」や「生産履歴が分かる」など新鮮・安心安全のイメージがあるとのことからイチジク等が挙げられました。

・地元農産物の需要を満たすために、今後必要な対応として、「端境期<sup>はざかいき</sup>※をカバーできる生産体制の確立」や「出荷ロスの少ない販売体制」が挙げられています。

・新たな需要を作るための取組として、新しい品種の特産化は難しく、「今あるものをさらに磨いていくこと」が重要であると考えられています。

・イチジクは、現在県内の需要をまかなえているが、「今後大阪・京都への需要拡大の可能性」もあるのではないか。

◇地産地消に向けた課題

・「既存の購入者以外の新たな購入者の創出が困難である。」や「通常の市場出荷よりも時間と経費がかかる。」また、「配送のための手段・人手の確保が困難」といった意見が地産地消に向けた課題として挙げられています。

※端境期：旬の野菜や果物等の農産物の出荷時期を終え、次の出荷時期まで市場に農産物が出回らなくなる期間

## C 直売所・道の駅

### ◇施設の利用状況

- ・栗東市内、滋賀県内からの利用者が多数で県外からの利用者は少ない傾向にあり、主な年齢層は30歳代～70歳代となっています。
- ・利用交通手段として車での来客が多く、次いでバイク・自転車での利用となっています。鉄道やバスなど公共交通を利用する人は少ない傾向にあります。

### ◇地元農産物の評価

- ・「新鮮でおいしい」という意見が多く挙げられる一方で、「出荷者によって品質や出荷量が不安定である」との意見が挙げられています。

### ◇地元農産物の販売促進や知名度向上に向けた取組

- ・3施設共に、できる限り地元農産物の種類を豊富に揃えるよう取り組んでいます。
- ・施設のホームページや各種広報誌、パンフレット、メディアによる宣伝を活用して積極的に情報発信を行っています。
- ・生産者と協力し各種イベントの開催など、独自の取組を行う施設もあります。

### ◇地元農産物の利用促進に向けた課題

- ・地元農産物だけでは出荷量・品目が安定せず、「端境期」への対応にも苦慮しており、顧客のニーズに応えきれないと感じている状況となっています。

### ◇栗東市の農業振興に向けた取組

- ・今後、生産者の方に取り組んでいただきたい事項について、「品質向上のための技術研鑽等」や「高品質、高付加価値の作物の取扱」など品質に関する取組の項目が多く挙げられています。
- ・その他として、「新規就農者の確保・育成」、「端境期の解消・生産調整」、「市場価格との比較・調整」、「作物の品種の拡大」の意見が挙げられています。

- 地元（市内・県内）利用が多数で、観光客の立ち寄りには少なくなっています。
- 地元農産物の生産者と直接触れ合う機会も多く、端境期を直で実感しているため、端境期の対応に苦慮しておられます。
- 無理に新しい特産品を作ろうとせず、今ある品目の「高品質」・「良食味」・「安定供給」を推進していくべきと感じています。また、安心安全を売りにした新たな加工品ブランドの展開も可能性があると感じています。

## D 飲食・加工事業者等

### ◇地元農産物の取扱と評価

- ・栗東市産のお米や野菜を積極的に使用されている飲食店（カフェ等）では、地元農産物の仕入れについて、地元の農家と直接やり取りしているお店が多く、その他には道の駅や直売所などで購入するケースがみられます。
- ・地元農産物の評価として、「味が美味しい」や「安心、安全、新鮮である」という意見が多く挙げられました。その他の意見として「特徴的な商品を仕入れることができる」や「お店で提供する際に、『栗東市産の〇〇』とアピールできる」という意見が挙げられています。
- ・「一般的な商品と比べ価格が安定しないため、良い面も悪い面もある」との意見も挙げられています。

### ◇地元農産物の利用促進や知名度向上に向けた取組

- ・地元農産物の利用促進や知名度向上に向けた取組として、「生産者名等を掲示する。」や「できるだけ栗東市産のものを使う。」という意見が挙げられています。
- ・また、「生産者からおいしい食べ方を聞き、メニューに組み込んでいる。」や「いちじくコンサートに参加しPRを行っている。」など生産者と積極的に関わろうとする飲食店も見られます。
- ・施設として、地元農産物の利用促進に向けた課題として「季節によっては無い商品も多い。」や「流通量が少なく地元産だけでは、揃わない商品も多くある。」など仕入れに関する課題が多く挙げられました。
- ・また、そもそも「栗東市で手に入る商品をあまり知らない。」などの意見が挙げられています。

### ◇農産物の取扱に関して今後、取り組みたい事項

- ・「地元農産物や季節ごとの農産物を利用した新商品の開発」や「現在、県外の農産物を使ったお菓子を提供しているが、地元産で品質がよいものがあれば使用したい。」などの意見が挙げられています。

- 地元農産物の利用促進に向けて、多くの利用者（店舗）に、何が生産されているのか・どこで購入できるか等を「知ってもらう」ことが重要です。
- 地元農産物だけでは、出荷者や時期によって品質や供給量にバラつきがあり、お客さんに満足のいく商品が提供できないと感じているため、質、量の安定的な供給の確保が求められます。
- 事業者としては、生産者と交流できる機会が欲しいと感じているようです。